

M-6-1-20

資料名 日滿統制經濟に就て

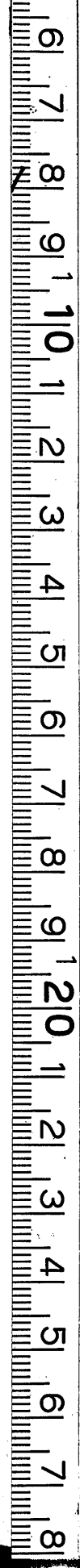
出所 日滿實業協會

作成年 19351224

寄贈者 編者

受入

注記 41P 22×15cm



昭和十年十二月

日滿統制經濟に就て

日滿實業協會

日滿統制經濟に就て

昭和十年十二月十四日於本協會講話會

對滿事務局事務官
陸軍一等主計

東 福 清 次 郎 氏

まだ原稿を能く見て居りませぬので讀みながら申し上げます。座つてやりますが御許しを願ひます。日滿統制經濟に就きまして幹事の方から話せと云ふ御相談がございましたので、もうそんな話は何でも宜いぢやないか皆様には御承知の筈ではないかと云ふやうなことを申し上げて實は御斷りしたのであります。まあ矢張り必要だから話して呉れと云ふやうな強いての御依頼がありましたので御引受けしたのであります。所が大體日滿實業協會なんかに関係のある御方は殆ど今日に於きまして日本に於きまする日滿經濟統制に關する最も認識の深い方々でありまして、殊に今日ではもう色んな參考書類とかそれから政府の發表なんかも出て居りますし又日滿實業協會で發行せられて居るパンフレット等を拜見致しますと可なり内容の充實した立派な參考書類が出て居りますので之を御讀みの方はもう必要でない位迄御存知ぢやないかと斯う思つて居ります。にも拘らずどう云ふ譯で斯う云ふ話をせよと言はれたのか實は迷ふて居りました結果、結局餘り世間に出て居ないやうなことを言へと云ふ

斯う云ふ仰せだらうと思ひまして、さう云ふやうな問題を自分の手帳や参考書類其他、朝夕取扱つて居ります日常の問題の中から引つこ抜いて、餘り系統的で彼是の連鎖もありませぬが、各個別々に意見を申し上げることに致したいと思ひます。

日滿經濟統制に就きましては丁度今から二年半位前、昭和八年の春、夏の候に掛けまして私共滿洲の現地に居ります時にラヂオ放送を致したり、或は講演會など、機會ある毎に意見を忌憚なく申し上げまして發表して居ります。それも可なり雜誌なんかに出て居りますので、關心を持たれる方は或は御讀みになつたかと思つて居ります。其當時私共が申上げました意見と云ふものは所謂滿洲に於きまする現地意見でありまして、必ずしも其の總てが中央の意圖をしつくりと受けて發表したるものではなかつたのであります。従て其當時私共がラヂオで放送したり或は雜誌に書いて種々なことを誠心誠意申上げまして、あれは滿洲現地責任者として民間の要求に迫られて止むに止まれず發表するものだ、それ故にあれは出先だけの意見だ、中央政府は必ずしもさう思つて居るかどうか分らないと云ふやうなことで、半信半疑で御聴取り下さつたこともあるかと拜察して居るのであります。所が二年半も過ぎました今日に於きましては日本の中央政府も出先きで持つて居りましたやうな意見を殆ど總て御聴き入れになりまして、今では出先と中央とは一致した意見に到達して居ります。故に今日私が

申上げますことは大體日本の中央政府と出先きの意見をコンデンスして、大體政府の考へと云ふのは茲にあるのだと云ふ積りで御聞き取り下さらば宜しいのではないかと思ひます。勿論秘密に亘りますことは申上げる譯に行かないのであります。それかと申しまして日滿經濟統制に最も密接な關係があり、而も之を知らなくては薩張り仕事にならないと云ふやうな重要な點に就きましては秘密に亘らない限り、私共の思つて居ります所をハッキリと申上げ皆様が仕事を爲さる上に支障がないと云ふ程度には解説を試みたいと斯う思つて居ります。又話の不充分な所は後で質問でもして下さらば御答する事に致し度いと思ひます。

そこで是から本論に入りますが、第一日滿經濟統制の狙ひ所は何處にあるか、一體如何なる目的に向つて今の日滿間の經濟統制は進んで居るのか、如何なる目的を貫徹したならば日滿經濟統制と云ふものは満足するのか、是が常に聽かされる問題であります。大體私の研究綜合いたしました結果を簡単に申上げますと、大體四つの狙ひ所があるやうに考へます。其第一は滿洲國をして帝國と不可分の關係を有する獨立國家として發展させるんだ、經濟統制に於ても之を忘れてはいけななのだと云ふこと、是は萬古不動の國策として決つて居ります。即ち此國策に順應するやうに經濟統制をやつて行かなければならぬ、と謂ふのが狙ひ所の第一點であります。第二番目には能く世間で言はれる言葉であ

りますが、日滿兩國の共存共榮を精神とし日滿兩國の國民生活を安定向上するんだと云ふ點であります。第三番目には帝國の——是は日本側であります——即ち日本側の對世界的な經濟力を擴充強化するんだ、即ち日滿經濟統制に依りまして對外經濟戰時能力と云ひますか、それを擴充、強化にするんだと云ふのであります。第四番目には滿洲國自體の經濟力を何處迄も強化して行く、即ち滿洲國は現在では世界の後進國でありますが、日滿經濟統制によりまして其の經濟力を發展強化して行くと謂ふのが第四の狙ひ所であります。世間では色々理由を捲し立て、議論から議論に花を咲かせて何處に要點があるか分らないやうなことを議論して居るのでありますが、大體今申した四つの點が日本政府の保持する經濟統制の根本目的になつて居るやうに思ひます。

然らば此目的を貫徹する爲にはどう云ふやうな要領或は方針で進んで居るのかと云ふことを申し上げなければならぬと思ひます。此要領が兎角世間の疑惑を持つた所でありますが——其要領に就て申し上げますと、第一は日滿の經濟と云ふものを一組織體として合理的に融合するんだと云ふ事を目標にして居るのであります。さうして此の目標に到達するのに色々な産業や事業を認めて行く場合に、どう云ふ條件を考慮して認めて行くかと申しますと、此日滿兩國に於きます所の天然資源或は天然條件と云ひますか、さう云ふやうな天然資源賦存の状態とか、それから日本國內に於きましては既に先進

國でありますからして既に高度に發達致しました既存産業もありませんし、又反對に滿洲國に於きましては後進國でありますから既存産業としては特に見るべきものは少いと云ふ様なこともありまするので、是等既存産業の状態乃至國民經濟發達の情勢を考慮いたしまして先づ一應適地適應主義で行くのだと云ふのが一つの根本方針があるやうに信じて居ります。それから第二番目には色々な經濟統制をやつて行く上に就きまして日滿兩國々民全體の利益を基調として進む、さうして現下の經濟上に於ける弊害を是正する、是が非常に強い意見になつて居ります。是は從來自由放任の地盤で仕事して來られました日本の實業界の人々に取りましては嫌な言葉であるに違ひはないと思ひますが、兎に角此滿洲の經濟統制に關する限りは或る特定個人とか、或る特殊團體とか云ふやうなもの、利益を基調とするんぢやない、必ず國民全體の利益を基調として統制するんだ、さうして其道程に於きまして日本の内地であれはいかぬ是はいかぬと言はれて居ながら、政府が手を付けることが出来ないで、其弊害を其儘で續行して居るやうな事象に對しましては、必ず其弊害を是正するやうな仕組みで統制して行くんだと云ふことが根本方針になつて居ります。此點に關しては現在資本家の御方々や事業家の方々は非常に心配して居られるやうであります、之は恐るべきものに非ずして當然の事であり、又現に實行中の各種實例を御覽になれば成る程と御得心の行かれる事も多かろうと思ひます。それから第

三番目には何時も軍人が言ふ言葉の様に想はれて居るのでありますが、平戦兩時を通じまして日滿兩國の經濟が安全にして行けるやうにと云ふ點であります。さう云ふやうなことが、大體の行き方の方針になつて居ると申上げて宜しいと思ふのであります。

然らば具體的に申すと如何なる點に統制の手が下されるかと申しますと云ふと、先づ産業に就て申上げますれば、交通、通信とか其他の事業にして帝國の國防上の要求に制約を受けるやうな産業とか事業、之には政府の強い統制が働きます。是は日滿共同防衛の條約の精神から見ましても、又前に申上げました共存共榮とか或は平戦兩時を通じて生活を安固にすると云ふやうな點から申しましても、國防上の要求に制約せられる産業と云ふものはどうしても強く統制して行かなければならぬと、斯う云ふ風になるのは當然と思ひます。それからもう一つは能く言ひます日滿經濟運営上重要な基礎産業と認めらるゝものには矢張り徹底的統制を加へて行くと云ふ考へで之も亦説明するまでも無く當然の事と思ふのでございます。それから金融に就きましては最近特に注目して居られると思ひますが、經濟界に於ける恰も神經系統のやうなものでございますから、日滿兩國の金融組織の間に圓滑なる調和が保たれるやうに又、日本の資本が滿洲に都合好く活動することが出来るやうに特別な工作をして、之にも徹底的な統制を加へて行くと云ふことが方針になつて居るやうであります。最近に於け

る日滿金融貨幣問題並爲替管理に關する動向等を御覽になれば此の邊の消息が御解りと思ひます。又第三國の投資に對してはどう云ふやうな行き方になつて居るかと云ふのが常に問題になり、今度のリースロスとか、其前には佛蘭西のドルヴェーとか獨逸とか、色々な方面から投資に關して偵察に來たのでありますが、其時には我々は明瞭に言つて居ります。日滿間は歴史的現實的特別な關係である。従て我々は特別な經濟統制方針と云ふものがあるのである。此日滿經濟統制方針の根幹を搖がすやうなものに對しては絶対に第三國の投資は御免蒙る、此根本方針に觸れない範圍に於てならばどしどし投資をして貰ひたい、斯う云ふ趣旨の下に第三國の投資は事實上統制して居ります。それから次には移民と云ふものに關する統制であります、之に對しては特別な考慮を拂つて統制の手を下すと云ふことになつて居ります。之が細部に關してはちよつと後で詳しく申上げたいと思ひますのですが、兎に角國家の力により計畫的にやる移民と云ふものに對しては必ず統制の手を下すんだと云ふことだけは申上げて置きます。それから滿洲に於ける産業の中で取分けて日滿兩國が何と言ひますか、第三國の供給に依存して居るやうな資源がありますが、さう云ふ資源に對しては出來得るだけ之を哺育して行くやうに統制の手を加へやう、日本にも滿洲にも無くて第三國から供給を受けて居るものは、天然條件さへ許るせば日滿經濟ブロックの觀念から少しは無理しても成るべく之を育成保護助長

して行かうと云ふ精神が常に働いて居ります。それからもう一つは日本にあります産業並に滿洲にあります同種産業で、それが何れも第三國に向つて發展をしようと云ふやうな産業があるのであります。さう云ふ場合には御互ひ同志で現に鎬を削つて居るやうな状態がありますが、あゝ云ふことは政府の手に依て無駄な競争をしたりするやうなことが無いやうに反對に協力して行かう、之に強い努力が拂はれて居ります。所が政府の力が鈍い爲になかなか巧く行かぬ場合があると思つて居ります。まあ政府が統制の手を伸ばすと云ふやうなものを拾ひ上げて申上げると以上申上げたやうな諸點であります。

以上申上げました範圍は頗る簡單ではありましたが、現在日滿經濟統制に關し統制者側に於て保持して居る理論的内容の骨子と思ふのであります。

之が可否、適否、當否に關しては又意見のある向もありません。然しながら私の研究致しました處に依れば現政府に於て直接或は間接に發表せられました所を綜合致しますと斯くの如く申上げざるを得ないのであります。

故に若しも皆様の中にて日滿經濟統制に關聯ある事業を發起せられんとする場合に於て、若しも政府に於て之を妨害するであらうと心配せらるゝやうな點がありますならば、以上申上げた様な諸點を

御研究下さつて、政府の考は右の通りなのですから、之が理論闘争に打勝つ準備さへ出来れば必ず成功せらるゝものと信ずるのであります。少くとも現在政府の代表として私が其の衝に當る場合が萬が一にもあるとしますならば私は納得すると申上げて宜しいのであります。

然らば今申上げましたやうな方針に基きまして種々な具體的産業を統制する手心と申しますか、どう云ふ手心で統制して行つゝあるかと云ふことを申上げたいと思ひます。大體に於て統制せらるべき事業を三段に分けて統制に手心を加へるのだと考へて居ります。第一段の統制に屬する産業は之を發達せしむる爲めに、支配的地位を有する特殊の會社でやらせやう、さうして其會社に對しましては直接又は間接に政府の強い所の保護監督下に置かう、斯う云ふ種類の産業であります。それから第二段の統制に屬する産業と致しましては統制の手は下すが努めて奨勵助長をやる爲に統制を加へる、其他の意味では餘り統制を加へない。即ち日滿産業統制の根本方針に照して努めて之を哺育伸張奨勵して行かうと云ふ種類の産業であります。之等産業に對しては多くの場合行政的乃至資本的統制の措置が講せられるのが通常であります。それから第三段の統制に屬するもの、是は特に我國産業の現状に鑑みまして制限的趣旨で統制して行かうと云ふ産業であります。即ち無茶に發展する事は日滿産業統制の見地より宜しくないと認める産業であります。此産業に對しては多くの場合行政的な制限を加へて

行くのが通常であります。

然らば、第一段に屬する産業、詰り支配的地位を有する特殊會社にして、さうして、政府が直接間接に之を保護監督して行かうと云ふ、産業と云ひますか事業と言ひますか、それはどんなものかと言ひますと、交通々信に關する主なる事業、鐵鋼業、輕金屬工業、石油業、それから代用液體燃料工業、自動車工業、兵器工業、鉛、亞鉛、ニッケル、石綿等の原礦採掘事業、それから石炭工業、硫安工業、曹達工業、採金事業、電氣事業、伐木事業と云ふやうなものが入ると思ふのであります。更に詳しく研究いたしますれば他にもあるかと思ひますが、滿洲關係で豫想せらるゝ主なるものはさう云ふものであるやうに判斷致します。今申上げましたやうな事業が統制事業になるかならぬかと云ふことに就ては曩に申上げました様な理論的諸件を御研究下さいましたならば成程と云ふ理由が御分りかと思つて居ります、それから第二段の統制事業に屬するもの即ち努めて獎勵助長して行くんだ、それが爲に統制する。斯う云ふ事業はどんなものかと申しますと、製鹽事業とかパルプ事業、棉花栽培、緬羊飼育、製粉工業、油脂工業、製麻工業、斯う云ふ風なものが此の部類に入るべきものと考ふのであります。是は事業の本質から云ひますれば、寧ろ現地に於きましては自由産業にしたらどうかと云ふ意見をなす人も居ります。又中央でもさう云ふ氣分が可なりあります。然れども之が助長を行はんには、

相當行政的乃至資本的統制を加へなければ其の目的を達成する事が出来ないと謂ふのが大方の意見になつて居ります。從來其資本構成が不味い爲に或は政府の關與する點が不味い爲に或は自然放任の爲にどうも曩申上げましたやうな獎勵の目的を達成する事が出来ない例は澤山あり、又内地でもさう云ふ經驗を現に祇めつゝありますので、之には矢張り統制の手を伸ばして行かうと云ふのであります。斯の意味に於て滿洲では純然たる自由事業ぢやない、斯う云ふことになつて居ります。それから第三段の統制に屬する事業、詰りどちらかと云ふと餘りやらせたくない、制限の意味に於て統制を加へる事業、之が眞に資本家事業家の嫌がられる種類の統制でありますが、それはどんなものかと申しますと、色々例もあると思ひますが、具體的に申上げますと、纖維工業、それから米の栽培、養蠶、汽船のトロール漁業、それから汽船底引網の漁業、さう云ふ事業、まあ斯う云ふものが制限される、成るべく抑へると云ふ意味で事業を監督して行かうと云ふことになつて居ります。勿論是は根こそぎ完全に抑へると云ふのぢやないのであります、種々な政治上の事情とか歴史的事實とか云ふものがありますので、或る限度を定めて、成るべく是は日滿合作共存共榮と云ふやうな見地から、兩國の利益の爲に之を抑へて行かう、と斯う云ふ考へなのであります、從て其限度に就ては其の産業の種類により、又時勢の變化によりても變化あるべく研究の餘地が澤山あると思ひます。大體統制する産業と

申しますと、さう云ふ三段に分けて考へを決めてあるやうに考へます。勿論此外に滿洲國政府が直接やつて居ります所の國營事業、例へば郵便、鹽、阿片の專賣と云ふやうなものがあります。斯う云ふやうな國營と云ひますか專賣と言ひますかさう云ふやうな特殊の統制下に置かれて居るものもあります。其外の産業は大體自由放任と云ふことに御解釋願へば宜いんぢやないかと思つて居ります。自由放任と云ふと直ちに日本の内地のその如く、然るべく企業計畫を樹て、自由に會社を設立し登記さへすれば宜いんだと云ふやうな氣分になられるかも知れませぬが、御存知の通り滿洲はまだ生れたばかりでありまして、斯う云ふやうな根本方針を樹てゝは居りますが、いざとなると迷ふと云ふやうなこともありまして、大部分の事業らしい事業と云ふものは許可事業にして居ります。併し今申上げたやうな工合で、統制すべき産業と云ふものは大體主なものを決めてありますから、其他のものに對しては強い統制が加へられると云ふやうなことはないであります。唯特別に例外なものがあつて、根本政策に觸れると云ふやうなものがあると困ると云ふやうなことから差當り許可事業にして産業政策の基礎を確實に行かうと云ふのであります。詰り目に見えない事業を許さない、斯う云ふ意味であります。其他各事業別に付きまして色々申上げることもありはせぬかと思ひますが、さう云ふやうな少し徴の生えたやうな問題に就きましては是位に止めて置きたいと思ひます。後で御質問があり

ましたらは何事業がどうなるかと云ふやうな御質問に對してゞも私の知つて居る限り御説明申上げたと思ひますが、唯心の行き方と云ふ點に就ては是位の説明で終りたい思つて居ります。

それから今一つ申し落しましたが、今後滿洲國內に創立する會社は特別の事情無き限り成るべく滿洲國法人にして行かうと云ふ事になつて居ります。其の理由は治外法權や附屬地行政權迄滿洲國に還してやつて、其の獨立國としての發展を援助して行かうと云ふ點から考へましても當然のことと申されますし、又私が第一番に日滿經濟統制の目的の所で申上げました如く、滿洲の經濟は特定の人とか團體の爲に非ずして國家國民的利益を基調として統制して行くのだと申しましたが、其點から見ても容易に得心の行かれる事と思ひます。

能く世間の人はもうさう云ふやうに肚が決つて居るならば立派な綱領で天下に發表したらどうかと云ふ斯う云ふ風に言はれる人があるのでございますが、私共生れが軍人である者は眞に結構だと云ふ氣分に直ぐなるものでございますけれども矢張り天下に公表しますと云ふと、而も政府の發表と云ふやうな形式でやりますと云ふと思はぬ副作用が出ますので、一般に是は公表されて居りませぬ。又政府の發表となりますと勢ひ細部迄書き現はす事は相當困難になりますから、皆様には納得の行かぬ不確な點も多いかと思ひます。是は頗る遺憾でありますが、大體私共の申上げますことは眞實に近ひ

んだと、斯う云ふ風に御聞き取り御信用下すつたら事業をなさる上に大した支障はないかと思ひます。殊に今日はもう對滿事務局とか外務省とか陸軍省とか云ふやうな方面に於きましても、對滿政策の行き方と云ふものは軌道に乗つて參りましたから、種々な書類なんかを研究するよりか、色々な眞劍な計畫があります時には直接役所に御出で下さいまして御聞き取り下さるならば、そんなに苦勞せずには又無駄をせずに行道が分るんぢやないかと斯う云ふ風に思つて居ります。又出先に於きましても關東軍司令部、大使館、關東局、滿洲國政府等それ〴〵陣容が整ふて居りますので、私共が前に滿洲に居りました頃と較べますと頗るはつきりした意見が聽かれるのではないかと思つて居ります。殊にそれが四角張つた官廳だけに御出になりませんが、新京驛の前の中央通りに、滿洲事情案内所と云ふものが出來て居ります。是は名前は頗る民衆的にツーリストビューロー式に出來て居りますが、實はしつかりした内容を充實せる官廳見たやうなものであります。同案内所の出來た由來を申し上げますと私共滿洲に居ります時分に毎日面會人が二十人も三十人もある、それに一々應接して居ると云ふと仕事が取れはしない。従て折角内地から遙々御出で下さいましても満足するやうな御話も出來ないで、まるで來客との問答は禪問答見たいに僅か四、五分間の縁切り話のやうな話で濟んでしまふと云ふやうな事實が澤山ありましたので、是ではいかぬ、第一官廳の事

務進捗上から云つても困るし、又折角内地から遙々御出で下さつた人に對して不満足な答辨を與へるやうでは實に國民としても迷惑至極である、何とか宜い仕組みが出來ないものかと云ふやうなことで研究いたしました結果、關東軍、滿洲國、海軍駐滿部司令部、滿鐵と云ふやうな所から後援を致しまして一つの案内所を拵へたのであります。従て關係各廳は世間に發表して差支へないものは總て滿洲事情案内所に提供する、さうして滿洲事情案内所はそれを整理編纂して、若し内地旅行者等が調査に來たならばそれに親切に答へてやる、必要な者には更に精細なる資料を提供すると云ふ仕組みをして置いた譯であります。殊に是がリーダーには人を得ることが極めて大事でございますので、御存知の通り事變前迄は滿蒙文化協會で御存知の通り滿蒙年鑑と云ふものを發行して居りましたが、あの編纂主任をして居りました奥村義信氏に來て貰ひまして……同氏はもう御承知の方もありませうが事變前から、滿洲事情に詳しいもので滿洲の生字引ですから其人に經濟統制に關する種々な資料を提供しますと云ふと非常に巧く短時間に整理して一般に巧く紹介すると云ふ實に最好適の人物を得ましたので、あの人に来て貰ひまして、實は滿洲事情案内所の仕事を始めたのであります。今日では滿洲國政府其他から直接間接に二、三萬圓づゝ金を出して援助して居ります。此處に行きますと少くとも官廳に行きました數倍の満足せられるやうな、而も地に付いた滿洲知識が得られるやうに私考へて居ります。又

向ふで色々編纂したものは實費で御分けすると云ふやうになつて居りますので、若し必要がありましたら滿洲事情案内所に照會せられたら結構と思つて居ります。

それから特に斯う云ふ心配があるんぢやないかと思つて居ります、君はさう云ふ風に言ふけれども實際出先きに行つて見ると云ふと關東軍がぐつちり抑へて居つてどうもならぬぢやないか、實際困つた問題だと云ふ御意見が時々聽かされるのであります。それが爲に種々な企業を計畫せられる人は、まあ軍との繋がりにと云ふやうな意味で、在郷に居られる將官の人なんか引出して、それを顧問としたりして、私共軍人から見るとまるで作戦主任に米屋の番頭さんを連れて來た様な形で、經濟のケの字も知らぬ人を顧問に引連れて滿洲に來られる人がありますが、是は誠に笑止千萬であると思ふのであります。在郷將官の方にも實に腕利きな立派な經營眼を持つた博識經驗の高い人もあります。さう云ふ人には何人も頭が下るのであります、何も知識がないやうな、唯在郷將官であると云ふやうなことだけで顧問にして來られると云ふと、却て軍の感情を害する、斯う云ふ風に思ふのであります。要するに軍と云ふ所は滿洲産業建設に關しましてはあつさりして居りまして、話が分りさへすれば誰が話しやうと、在郷將官の人が話しやうと、何人が話しやうと、眞劍に聽くのは習慣になつて居ります言葉使ひが非常に下手であります爲に寄付き悪いのであります、さう云ふ點は心配なくどしどし行

つて戴きますと云ふと、其の言葉の粗雑なるにも似ず實に喫驚する程理解が早いと私は信じて居ります。それでさう云ふやうに軍を何と言ひますか、困つたものだと言ふやうな気分にならぬやうに、若し軍の意見が聽きたいことがあるならばどしどし面會を申込んで行つて解決を求めた方が宜いと思つて居ります。唯關東軍に限らず軍人を説得するには一つの手心があると思ひます。其手心を申し上げた方が却て宜いんぢやないかと思つて居りますが、吾々軍人は相當深く經濟方面の研究はして居りまして、大體に生一本の軍人でございまして、經濟統制に關する根本方針なんかに關しましても、一般の行き方と異りそれを率直に解釋いたします。詰り曩に申し上げましたやうな、あの經濟統制方針であります。あれを正直に實行して寸分も違はぬやうに中央部の意思に従ふと云ふ氣分が可なり強くありますので、若し軍を説得するならば、曩に申し上げました經濟統制の根本方針を能く自分の事業計畫に較べ合せまして、斯う言つたらあゝ言ふ、あゝ言つたら斯う答へると云ふやうな、所謂企業作戦計畫を練つて行かれる、さうして自分の事業に對する諒解を付けると云ふことにしますと、極めて敏速に諒解が付くのではないか、斯う思つて居ります。其代り一度諒解が付きましたならば、軍と云ふものは逆にも苟も軍が之を認めたらば是が成立つやうに全力を擧げて援助すると云ふやうな氣分を惜しまないのであります。此點は他の役所と私は特別に違ふんぢやないか、斯う云ふ風に考へて居ります。勿論

關東軍と云ふものは、事變と云ふ名前があります爲に、又實際上の必要と責任から經濟建設其他に色んな發言をして居りますけれども、もうぼつ／＼軍本來の任務に立歸りまして、もう日本側官廳も陣容整備せられ又滿洲國政府も相當陣容が整ふたのでありますから、軍の立場より把握すべき大綱方針だけを握つて、細部の事項は滿洲國政府に委せると云ふやうな時代にもなつて居りますので、特別な根本方針に觸れるもの、外は、滿洲國政府に今日では委して居るんぢやないかと思ひます。殊に種々な事業計畫をせられます場合には、滿洲國の實業部に行かれて解決を求める場合が一番多いんぢやないかと思ひます。さう云ふ場合でも、ともすると滿洲國政府は是は軍の方で反對だから軍の諒解を得ると云ふことがないでもないと云ふ事を聞いて居ります。さう云ふ場合には曩に申上げましたやうな氣持ちでどし／＼軍に行かれる方が宜いんぢやないかと考へて居ります。世間では能くどうも關東軍の方は資本家反對だ、資本主義には反對だと云ふやうなことを事新しく言はれる人もありますが、それは誤解であると思ひます。毛頭さう云ふ心配はないと思ひます。矢張り其の根底は資本主義で行くんだ、資本、自由、營利、それは何れも認容するのだ、さう云ふことが産業發展の原動力だと云ふことは皆知つて居ります。但し無制限に之を認めないと云ふ點に就ては昔も今も變らぬと思ひます。それで昔のやうな氣分で軍に會はれると云ふと可なり可笑しいことになると思ひます。能く従前に修正資

本主義と云ふ言葉を軍で使つたのでありますが、それは資本主義を抑へると云ふやうな意味に直ぐ取れる心配があつたのでありますが、さうでないのであります。日本の内地で政府が統制をやつて居ると殆ど變らないのであります。唯曩に申上げましたやうに、軍は仕事に忠實であります爲に直ちにそれが仕事に靦面に及ぶ、内地のやうに緩漫でない、従て肌觸りが荒いと云ふ點はあると思ひますが、決して内地最近のイデオロギーと根本的に變つた點はないと思ひます。唯從來修正資本主義の色彩が内地よりも靦面に實行に及ぶ、それだけの差であつた又現在も左様だと斯う思つて居ります。

以上申上げましたことは大體現在の實情を御説明申上げたに過ぎないのでありますが、是からは私三、四年間斯う云ふ方面に關係して居ります途中に感じたこと、詰り意見でございます、之を申上げて見たいと思ひます。先づ第一に申上げ度い事は、内地に於て過剰生産力のある種々な事業がありま

す。殊に工業に於てはさう云ふやうな事業が澤山あると思ひますが、斯く云ふやうな事業に就きましては實は滿洲進出をして貰ひたくないであります。此點は日本の實業家の方に對しましては猛省を促したい、と斯う云ふ風に考へて居ります。もう滿洲は昔の支那と違ひまして全く日滿一體日本の領土と變らぬやうな實質を備へて居ります。日滿合作の趣旨と云ふものは日滿人の間に徹底して居ると

私共信じますので、日本の内地に過剰生産力があるにも拘らず急いで更に過剰生産を刺戟するやうな、又之を助長するやうな工場を滿洲に作る必要はない、内地の休止して動かない機械を動かして滿洲に安價な製品を供給したらどうか斯くせなければ日滿統制は意義をなさないと云ふ氣分は非常に強く持つて居ります。殊に滿洲國側に於きましては曩に申上げましたやうに内地以上の經濟統制力と云ふものが有力に働いて居りますので、若し政府が斯う云ふ風にしたいと言つたならば其通りなるんであります。日本に澤山機械が遊んで居るんだから、あの機械を動かして……安價な品物を生産して滿洲に持つて來たら宜いぢやないかと言つたら大概の人は解ると思ふのであります、從て内地に過剰生産力がある産業と云ふものは成るべく滿洲に工場を作らぬやうにして貰ひたい。中華民國の邊であるならば日本人が行かなければ必ず外國人がやる、さうして早く行つて工業を起さなければ損ぢやないかと云ふやうなこともあるのであります、今申上げましたやうに、滿洲ではちやんと抑へて居りますからして、そんな心配はないのであります。一時的に關稅其他の都合で而も進出自由だと云ふと、もう内地に過剰生産力があらうがなからうが我早くと云ふことで出て行つて居るやうでございませう。餘り感心したことでないやうに思ひます。此點に就きまして一つ苦しい經驗をしたことがありますので、其例を申上げてしつくり頭に入れて戴きたいと思ふのであります。丁度上海出兵の際のことではありますが、

上海出兵に非常な反對をした者がありました。其反對者達がどう云ふことを言ふかと申しますと、我々は上海に出兵するのは絶対に反對だ、海軍を陸軍が助けると云ふやうな意味があつても我々は絶対に反對だ、若し上海邊に一錢一厘たりとも投ずる金があるならば、それを滿洲問題の解決の爲に是非提供して貰ひたい、滿洲には金がもつともつと掛るぢやないか、それに方角の違つた上海に金を捨てると云ふことは今日の場合困る、一體上海出兵と云ふものは上海にある紡績業を救ひに行くのぢやないか、あの紡績業と云ふやうな——頗る言葉が悪いのですが斯う云ふ言葉を使つて居ります——あの紡績業と云ふヤツは日本の資本家と云ふ連中が利潤を得る爲に特に飛出したものだ、あの紡績業が上海に行つたばかりに彼處で出来るだけの數量と云ふものは日本の内地から行かなくなつた、從てそれだけ内地の機械と云ふものは動かなくなつた、そこで日本の勞働者と云ふ者は職を失つて、或は賃銀を切下げられて非常に困つて居る、反對に日本の資本家が彼地に金をばら撒いた爲に上海の勞働者はそれだけの職を得て居る、斯う云ふことを考へるとまるで上海の紡績と云ふものは非國民見たいなものだ、此非國民の持つて居る紡績業を何で我々が命を質に置いて行つて救けるか、平時に於ては我々に失業させ、更に有時の場合には命を捨て、工場を守りに來いと、斯う云ふことを言ふのと全く同じことだ、若し陸軍が之に向つて出兵すると云ふなら陸軍は資本家の奴隸か、我々はさう云ふ者の奴隸ぢ

やない、陸軍は其奴隷かと云ふやうなことを申しまして非常に困つたことを覚えて居ります。それは丁度私其當時參謀本部に居りまして、如實にさう云ふものを、直談判でも聽くし文書でも澤山見ました。其感じが頭に澤山残つて居るのであります。斯う云ふやうな意味に於きまして日本の内地に過剰生産力があると云ふやうな事業は、滿洲に行つて更に過剰生産力を助長する、さうして日本の内地の機械を動かすことが益々出来なくなると言ふことは、社會政策の見地から見て慎んだ方が宜いんぢやないかと、斯う思つて居ります。此上海問題の場合に於て私共は此實質に就ては相當能く知つて居りますので、斯う云ふやうな申出は不穩當だ、不適當だと強く信じて居ります。勿論反對論者の言ふことも一面の眞理のあると云ふことも亦能く理解出来た次第であります。上海は曩にも申し上げましたやうに若し日本の紡績が彼地に進出しなかつたならば、さう云ふ條件の好い所には必ず第三國が行つて事業を起すに違ひない、さう云ふやうな條件の所ならば矢張り日本の其道の者が行つてやつた方が宜いぢやないか、日滿支の經濟ブロックとか東亞經濟ブロックとか、さう云ふ意味から言ふならば、さう云ふ危険を冒して行く事業家と云ふ者は我々の爲のチャンピオンではないか、前衛部隊である、と云ふ風に考へて居るのであります。從て上海事變の場合に於てはさう言ふ議論の方が勝つて出兵が可能になつたとも言へるのであります。さう云ふ意味に於きまして滿洲とか朝鮮とか、に就ては其の論

法があてはまるか、と謂ふに鮮滿の如き絶対に日本の統制が及ぶ所は、考へが根本的に違つて來る、此の場合には反對論者の理屈が成立する、斯う云ふ風に思ふのであります。斯の如き經驗から私共は次の教訓を得たのであります。其の一つは種々な事業を起す場合に、殊に斯う云ふ國際的事業に於きましては、資本構成に非常に注意をしなければならぬぢやないかと云ふこと、即ち上海問題の場合に就て考へて見ますと云ふと、若し此資本が半分でも日本の政府が出て居て、さうして半官半民の會社であつたとしますならば、出兵反對論者が言つたやうな問題は解消してしまつたと思ふのであります、詰り上海に於ける某事業と云ふものは資本家の事業にあらずして日本の我々の事業だと云ふやうな説明も附きますので、若しさう云ふことだけを心配するならば、さう云ふやうな資本構成は賢明だらうと云ふことも考へられます。まあ御參考になれば結構であります。斯う云ふやうな意味に於きまして日本内地に於て過剰生産力があるやうな工場は餘り滿洲に建て、貫ひたくないと思ふ感じを強く持つて居ります。それから方面が變りますが、今度は移民に關しまして私共の考へを申上げて見たいと思ふのであります。今日でも相當行惱んで居ります、殊に事業家方面の方には御迷惑な耳の痛いともあると思ふのでございますが、暫時御靜聽を煩したいと思ふのであります。第一は私共が何故に移民に熱心であるかと申しますと云ふと、是はもう言はぬでも知れたことと思ひますが、第一人口問

題の點から言ひましても又曩に申し上げました社會政策と云ふやうな點から申しましても極めて必要である……一體現在滿洲に種々な經濟政策をやつておるけれども、殆ど總てのものは資本家とか事業家とか云ふやうな者の爲だけに滿洲を開發して、我々勞働者とか下層農民とかと云ふ者に對しては政府は何等徹底的な處置は講じて居ないぢやないか、而も滿洲に出兵して命を投げた悉くは我々農民ぢやないか、或は下層階級の者ぢやないかと云ふ意見が可なりありまして、社會政策上からもどうしても之を考慮しなければならぬ問題と思つて居るのであります。殊に滿洲から内地に凱旋する兵隊の中には一體我々は滿洲で是だけの苦勞をしたけれども、一體是がどれだけ我々に響くだらうかと云ふことを能く酒を飲んだ後に言ふのであります。殊に壯丁の中にも昔と違ひまして小學校を優秀な成績で卒業したとか或は中學を卒業した者が可なり居りますので、相當高尚なことを言ふのであります。我々が二年有餘も滿洲に居つて働き、其間我々の家と云ふものは實際借金は山となつて積まれて居る、所が今度我々が内地に歸つたら何がどれ程我々の經濟生活に影響するんだ、どれ程救き目があるんだらう、渡航費でも貰つて職でも授けて貰はぬと我々は何等得る所はないと平氣で言つて居るのであります。是は決して見逃すことの出来ない社會政策上の大きな點だと思ふて居ります。又人口問題に就て言ひますと、釋迦に説法のやうなことも知れませぬが、一體年に八十萬づゝも増加するのを、年

に五百や千人づゝ送つて何になるかと云ふやうなことを言ふ人もありますが、私共はさう云ふ風に輕微に考へて居りませぬ。大體滿洲に日本人が行くと云ふことは、國防上の見地から云ひましても亦人口問題の點から云ひましても、滿洲に日本人が行きますと云ふと、本當に滿洲が日本の土地のやうになると思ひます。さうなりますと云ふと、滿洲國は日本の原料市場ともなりますし、又消費市場ともなりますので、平戰兩時を通じて確實な立派な日本の市場が開拓されると云ふことが言へます。斯くすることに依りまして、日本の都會が商工业化し都會に於ける人口收容力が増大する、それで滿洲に行かなくても日本の内地に人口收容力を増加するから人口政策上殊に喜ぶべきものぢやないか、人口問題解決上慶賀すべきものぢやないかと考へて居ります。國防の點から申しましても實際日本人がもつと居なければ、是は戰時の時直ぐ困るのであります。鐵道は敷いたが周圍はまるで朝鮮人とか滿洲人だけだとか云ふと、其鐵道沿線何百哩に亘つて護衛兵を配置しなければならぬ、若し其周圍に日本人が居れば理想的であります。半分だけでも日本人が居ると云ふことになつたならば、沿線の守備兵と云ふ者は殆ど要らずに作戰行動が出来ると思ふのであります。斯う云ふ點から言ひますと云ふと、私共國防上から言ひましても、又社會政策上から見ましても又人口問題解決とか商業政策の見地から見ましても、一刻も早く移民と云ふものはやらぬと云ふと飛んでもない結果に終りはせぬか、經濟建

設と大きな聲で言つて居るが、出来上つたものは事業家とか資本家の手先きになつたものが現はれて居る、結果に現れたものは僅に一年間に五百人づゝ、拓務省の申譯的にやつて居る試験移民に過ぎないと云ふことになりますと、社會政策上由々敷大事を惹き起すんぢやないか、斯う云ふ見地に於きましてももう少し日本の内地に於きまする色々な人々が移民に本氣になつて貰ひたい、斯う云ふ感じを持つのであります。やらうと思つたら私共出来ないのぢやなくて、やらないのだ、斯う云ふ感じを此頃では感じて居りますので、特に斯う云ふことを申上げるのであります。拓務省が滿洲移民の試験をやつて居りますが、其外にも種々な試験臺があります。拓務省が始めてから四年になりますが、其結果に依りましても移民と云ふものは必ず成功するんだと云ふことがもう證明付けられて居ります。唯如何せむ政府の補助する金が無い、移民には相當金が要るんです、一體そんなに移民に金を掛けてやるならば移民にやらないで内地の窮民にやつたらどうだと云ふ馬鹿な議論する人がありますが、私共はさう云ふ風に單純に考へて居ないのであります。私の見方が當つて居るかどうか分りませぬが、日本内地の商工業を援助して行くやうな意氣込で移民を援助して下さいならば必ず私は成功するものだ、金も必ず工面が付くものだと思つて居ります。具體的に例を取りますと云ふと、日本の製鐵業を例にとりますが、是は今日では決して幼稚産業ではないと思ふのであります。堂々と拔手を切つて世界と對

抗する大産業ではないかと思つて居るのであります。にも拘らず銑鐵一噸六圓づゝの關稅を課けて之を保護して居ります。勿論國策的種々の意味もあるので必ずしも悪いとは思いませんが、日本の銑鐵だけを計算しても年に二百七十萬噸も需要がある、其二百七十萬噸が悉く大體六圓見當上つて居る、其負擔は誰がするか、それは約一千六百萬圓になるのであります。其金を誰が負擔するかと云ふと總て消費者の負擔に於て商工業者を保護して居る結果になつて居ると私共は思ふのであります。丁度製鐵業を一年に一千六百萬圓も出して政府が補助して居る、それ位の意氣込で移民に金を出してやつたならば、實に滿洲移民の如きは易々として成功するに違ひないと斯う考へて居ります。大體一千六七百萬圓もあつたならば、年に千五、六百戸、之を人口に換算いたしますると五、六萬人にも及ぶと思ふのであります。年に五、六萬人づゝ滿洲に送ることは誠に易しいことだと斯う云ふ風に考へるのであります。それで今日では出来ないんぢやない皆が熱心にならないのだ、斯う云ふ風な感じが強く致しますので、他人のことと思はずに移民に關しては吾々一部官吏に止まらず國民全體が是非熱心になつて貰ひたいと思ふのであります。

それから誠に失禮な言分でございますけれども、私共今日迄感じた所を申し上げますと、日本の實業家は非常に眼界が狭いやうな心持を持たされたことが屢々あるのであります。どう云ふ點かと申しま

すと、曩にも少し申し上げましたが、卒直に申し上げますと、兎に角目前の利益だけに捉はれて總てを解決する癖がある、遠大な希望、日滿經濟統制と云ふやうな大きい所に目を付けて實際仕事に當る人は非常に少いと云ふ感じを持つのであります。狭い日本で御互に市場を獨占することだけに汲々して、或る一つの會社が願書を出すと云ふと、又同じ願書を競争して出す、特に新興滿洲國の企業では其の例を澤山見受けたのであります。さうして一度滿洲の市場が日本人の思ふ通りになると云ふと我先にと、そんな工場なんか滿洲に起さぬ方がどれ程日本の爲になるのか分らぬやうな事業であるに拘らず而も堂々たる企業家が滿洲に工場を建設したがる、あつさり言ひますと眼界が非常に狭い、唯目前の利益を追求して事業計畫を樹てる人がもう我々が想像するよりも尙ほ以上に多かつたと云ふ感じを持つて居ります。さうして今でもさうであります、能く滿洲に種々な理由で、或は幸に工場を建てる事が出來たと云ふ場合には、直ぐ其品物を親元の内地に送り込まう、さうして關稅とか種々な問題で請願して來る、斯う云ふ風な傾向が非常に多いのであります。さうして支那本部四億の民に賣出すとか或は印度の三億五千萬も人口のある所に向つて進出するとか云ふやうな氣分は毛頭見えないのであります。勿論事業が獨り立ちする迄には自國の勢力範圍内で或る程度の發育はしなければならぬと云ふことは私共も信するのであります、どうも日本の一流の實業家の人々が、斯う云ふ風な、我々

素人が申上げて誠に恐縮と思ふやうなことを平氣でやられると云ふと、誠に情ないと感じるのであります。是は實際具に經驗したことでありますから御笑草に申上げて置きたいと思ふのであります。

今迄は惡口だけ申上げましたが、今度は滿洲事變に關係いたしました、私共軍關係者は、實業家の人々が行動せられた爲に、軍の作戰を援助して非常に活力を興へられた一つの例を持つのであります。是は私共まだ忘れることも出來ない例でありまして、今日は丁度斯う云ふ關係の人だけ御集りの會でありますから御紹介申上げたいと思ひます。それは今回の滿洲事變に於きまして此全國の實業家の人々が一致結束せられまして或る行動を執られたことであります。丁度滿洲事變が突發いたしました幾何もない確か昭和六年の十月頃であつたかと思ひますが、當時私共は參謀本部に居りまして、滿洲事變勤務にもう連日連夜多忙を極めて居る時でありましたが、其當時私共の決心は滿洲事變の解決は日本が全力を傾倒してやるんだ、假令第二の世界大戰が始まりましたも必ず勝算が我にあるんだと云ふやうな信念の下に種々な合理的基礎計算を致しまして、策を樹て、居る時であります、さうして一方に於きましては國論を指導し、世界の情勢や外國の動向を非常に神經質になつて眺めて居る時でありました。所が御存知の通り國民は笛吹けども躍らず霞ヶ關はまるで平和の夢に包まれて、容易に醒めやうともしないと云ふやうな有様であつたことは御存知の通りであります、其危機一髪の時機

に於きまして、確か全国の商工會議所の聯合會の聲明であつたと思ひます。全国の實業家の人々が次の如き意味の聲明を全國に發表せられまして、而も其本文は英國、獨逸、佛蘭西、三箇國語に翻譯せられて世界に配付せられたと云ふことであります。其文章はちよつと明確に覺えて居りませぬ、が大體次のやうな意味であつたやうに思ひます、「我々日本の實業家は今回の滿洲事變に於ては如何なる打撃を受けても必ず是が最後の解決を見る迄は動搖することはない、排日問題が起らうと日貨排斥が起らうと是は覺悟の前である、一致結束して運命を賭して滿洲事變の解決に當る」と云ふやうなことを發表せられたやうに覺えて居ります。之を讀んで私共は如何に力強く思つたか御想像願ひたいと思ふのであります。今日から見ますれば何も大したことはないか頗る平凡當り前のことではないか斯う云ふ風に御覽になるかも知れませぬが、當時我々軍部に於きましては非常に神経質でありまして是が強く響いたのであります。何故響いたとか申しますと私共の頭には次の二つの心配があつたのであります。其一つは若し第二の世界大戰が起つたならば國防と財政との關係はどう云ふ風に調和して行くか、特に戦争が持久戦にでもなつたらどうするか、まあ平常の研究に基く算盤は然々斯う斯うであるけれども、兎も角いざ戦争となれば果して其の計算通り動くものか、どうか非常に迷ひまして私共遲疑逡巡したんであります。殊に滿洲事變を何處々々迄も解決すると云ふ決意が強ければ強い

程其決心の太さに正比例いたしまして非常に心配の度が強かつたのであります。是が心配の種の一つでありました。其次には最も弱蟲である所の日本の實業家の人々であります。是は從來の對支作戰、對支積極外交の場合には何時でも、いの一に一番に排日貨の爲に悲鳴を擧げて來られる、さうして積極的行動なんかも中途にして止めなければならぬと云ふやうな場合に能く遭遇したのであります。之を今度の滿洲事變に際しては對絶にやらしちやいかぬ、何とかして之を抑へる方法はないかと云ふことで心配して居る眞最中でありました。從來の對支積極外交を失敗したのは斯う云ふやうな動搖があつて失敗したのだと聽かされて居るのであります。所が當の御本人の一番弱蟲である所の實業家の人々が先頭に立つて大丈夫だ、我々は肚を決めたと云ふことを天下に公表せられたのであります。それで私共軍部、特に國防經濟方面に關係して居ります陸軍經理部であります、斯う云ふ方面に於ては非常に力強い活力を得たやうな感じを致しました。話は是位で打切りませんが、今日此やうなことを申し上げますのは、何だか當時の責任者に對して御禮を申し上げたいやうな氣にもなる次第でございます。話が少し外れ道になりましたけれども、今日の軍事行動と云ふものは是位財政經濟と云ふものを非常に頭に入れてやつて居るんだ、眞劍に軍に於ては財政經濟を作戰行動に結付けて考へて居るんだ、さうして戦時經濟統制に於きましては、此統制する側と統制せらるゝ側との意見が合致いたしますと、是

位迄強い影響があるのだと云ふことをはつきり頭に入れて戴きたいと斯う思ふのであります。願くば將來の作戦に伴ふ經濟統制と云ふやうな問題が起りましたならば、どうか斯う云ふ風な氣分を繰返して戴きたい、斯う思つて居る次第であります。

餘り面白い話でもないので御退屈かと思ひますが、最後にもう一つ申し上げたいことがあります、日滿經濟統制に付きまして、國民、一般に弛みが生じて來たやうな氣がするのであります。それで機會ある毎に人も申し上げて居るのであります、我々は滿洲事變が始つた時の氣分にもう一度立ち歸へる必要があるんじゃないか、一體滿洲事變はなせ始つたかと云ふことを反省して貰ひたい、さうすれば斯う云ふ風に安穩として居られない、何故滿洲事變が始つたか、今日此處に來て居られる方は是非もう一度回顧して戴きたいと斯う云ふ風に思ふのであります。滿洲事變の起つた理由に就きましては、其見る人の立場に依りまして種々異なると思ひますが、之を純經濟的な、純實業家的……事業家と云ひますか、斯う云ふ方面から見ますれば私は大體三つの原因があつたやうに信じて居るのであります。殊に當時私は參謀本部に居りまして斯う云ふ方面の雜役をやらされて居りましたので、其時の氣分はまぎ／＼と頭にあるのであります、大體滿洲事變の起つた原因は三つあると思ふのであります。其第一は日本内地に於ける經濟が殆ど徹底的に行詰つて居た、やれ失業問題とかやれ勞働問題とかそれ

から右翼運動、左翼運動、ファツシヨと云ふやうな問題が次から次に起りまして、兎に角何等か政府が徹底的處置を施さなければ國が危きに近付くのではないかと云ふ氣分がして居る眞最中でありました。而して第二には而も其時其頃でございますが、世界に經濟ブロック熱と云ふものが擡頭して來たやうに思つて居るんであります。世界に經濟ブロック熱と云ふものが起つて參りまして、日本の實業界、經濟界を非常に刺戟して行つたやうに思ひます。丁度其頃は世界的經濟不況の眞只中にありまして先進國に於ける不況は特に甚大で所謂經濟界危機に瀕し、やれ關稅會議、やれ世界經濟會議或は關稅休日とか或は不戰條約とか或は軍縮條約と云ふやうなことで、まあ斯う云ふ風な危機存亡の秋に、どうしたならば平和で行けるだらうかと云ふことに就きまして各國は腐心し、衣食足つて禮節を知る國柄と申しますが當時世界の現状維持を好むやうな亞米利加とか英吉利、佛蘭西とか云ふやうな國では、特に平和維持に苦心して居る眞最中でありました。種々な斯う云ふ會議をやりませうけれども殆ど國際和協工作は失敗に終り、結局止むを得ぬから英吉利は自分の本國と植民地を合せて、打つて一丸として一つの經濟ブロックを作らう、佛蘭西は獨逸をめぐる小國に金を貸付けてさうして歐羅巴大陸のブロックを作つて行かうと云ふ考へが自然に出來て來る、亞米利加は南北亞米利加を一丸として一つの勢力を作らう、露西亞はあゝ云ふ特殊の行き方で、純共產主義的な勢力範圍を世界に擴大して行

かうと云ふやうな、兎に角ブロック経済と云ひますか、さう云ふ熱が非常に起つて居る眞最中でありました。日本も何とかして少くとも極東経済ブロックを完成するにあらずんば、年に殖えつゝある人口問題を初めとして、兎に角日本の世界経済界に於ける行き道と云ふものは塞がれてしまふと云ふ不安が起つて来た當時でございます。是が理由の第二でございます。第三番目には日本の満洲に於ける各種權益と云ふものが非常に危機に瀕して行詰つて居たと云ふ點であります。當時御存知の通り舊軍閥政權の壓迫で排日侮日と云ふやうなことで四面楚歌の聲で、もう満洲から、支那本土から日本に引揚げねばならぬと云ふやうな苦境にあつたことは御存知の通りであります。斯う云ふやうな日本内地経済の行詰りの行詰り、世界経済不況に基く経済ブロック熱の臺頭、それから満洲に於ける日本経済の行詰り、三つの大きな原動力がありました爲に、一度満洲に於て火蓋を切つてさうして是が國民に理解せられるに至つてから後と云ふものは、此國民の後から押す銃後の力と云ふものが非常に強くなつたやうに思ふのであります。左様に大きいものであつたから今日の如く斯う云ふやうな大成功を來したものと私は信じて居るのであります。所がどうでございますか、此三つの原因、之を解決しなければ結局満洲問題は解決したと云ふことにならぬと私は思ふのであります。が、少くとも内地の経済だけは是は不充足ではあります。が當面の急を救ふ程度には出來たやうに思ひます。世界の不況に先立ち

先づ極東の一角から、日本の國だけは先づ経済不況から或る一部分の事業を除きまして、兎に角活氣付いて來たと云ふことは言へると思ひます。満洲事變の赤字公債、赤字公債と言ひますけれども、大藏省の財政収入の状態から見しても、近年稀に見る収入増大を示して居るやうであります。又貿易の如きも日本では殆ど前例がない位の好成績で、今年も輸出とん／＼になりはせぬかと云ふやうな良い結果を來して居るやうに思ふのであります。また右翼、左翼問題、或は何とか問題と云ふのも、満洲に多くの失業者が救済されたと云ふことから、大部分鳴を鎮め日本は一陽來復活氣を呈して來たかのやうに考へられるのであります。之が果して當つて居るか否かは研究の餘地はありますが一應左様に考へられて居るやうに思ひます。又申す迄もなく満洲に於て危機に瀕して居た所の權益、是は内地のそれの如く擴充されました。否それどころではないと申上げて宜いと思ふのであります。從て満洲事變の起りました所の二つの原因だけは少くとも一應解決された、或は解決されぬでも宜いと思ふのであります。遺憾ながら最後に残る東亞経済ブロックの結成と云ふことは今後の問題に残されて居るやうに思ふのであります。而も曩にも申しあげましたが右の二大目的が一應解決出來たのに満足し切つて何だか最大の第三の目的を忘れたかの感じがするのであります。

前にも色々な悪口を申し上げましたが、結局さう云ふ感じをするのは世界の情勢を眺めて一刻も早く

極東經濟ブロックを作つて行かうと云ふ熱心が當の實業家、事業家には非常に少いと云ふことを感ずるのであります。只今國民の一部分では北支那特別工作とか云ふやうなことを唱へて居りますが、新聞なんかでは逸早くさあ滿洲の泥棒が濟んだから是から北支那の泥棒と云ふやうな記事を出して居りますが、是は私共が申上げるやうな氣分を誤解し餘り露骨に下手に暴露し過ぎた結果だらうと思ふのであります。北支が敵意を抱くやうな經濟提携では駄目であると思ふのであります。右様の次第で要するに滿洲事變の起りました原因の一つはまだ解決されて居りませぬ。若し私の申上げます東亞經濟ブロックを作ることが滿洲事變を起した終局の目的であると納得下さるならば、日滿經濟統制のやり方に付ても非常に行き方が違つて來るかのやうに思ふのであります。單に滿洲と日本内地とを結付けて一緒にすると云ふやうなことでは駄目だと思ひます。其一緒にした結果は必ず支那本土とか印度とか云ふやうな方面に伸ばす力が出來て、所謂對外經濟進出能力と云ふものが出來まして、東洋諸國を其の温き懷の中に抱き込む即ち東亞ブロックを形成する種になるやうにしなければならぬと思ふのであります。鐵とか石炭、紡績、アルミニウムとか種々な事業がありますが、是も國內的だけに考へずに、少くとも極東には先進國に遅れた國民が集つて居るのでありますから、斯う云ふものを相手に之を抱擁することを考へなければならぬではないか、斯う思つて居ります。

日滿經濟統制と云ふやうな表題で申上げたのでありますが、結局は東亞經濟ブロックの形成と云ふことで、話が變な所に行きました。私共は日滿經濟統制と云ふものが矢張り最後に於きましては少くとも極東經濟ブロックを形成するにあらざれば眞の目的は達せられないんだと、斯う云ふ風に信じて居る次第であります。今日私が此處に參りまして御話申上げたことが一歩たりとも斯う云ふやうな大きな目標に向つて出發するやうな道程になるならば、誠に仕合せと思ふ次第であります、詰らぬ話を申上げましたが是で終ることに致します。(拍手)

質問 應答

篠崎常任幹事 此機會に私共は豫て伺つて居りますけれども、まだ事業會社の「配當制限」だとか或は事業手續が非常に遅れると云ふやうなことを時に聴きますが、さう云ふことに就て此機會に……

東福事務官 第一番の「配當制限」と云ふ問題であります。併し「配當制限」をやるのが果して宜當時に於きましてはさう云ふことを考へたこともありません。併し「配當制限」をやるのが果して宜いのか悪いのか、又出來るものか出來ぬものか又曩に申上げましたやうな經濟統制の目的方針要綱に合致するのかどうかと云ふことを研究いたしました結果は、「配當制限」なんかを堂々とやることは必ずしも適當でないと云ふ結論に到着したのであります。併し例外なしに「配當制限」をやらないと云ふ

ことはないのでありまして、氣分だけは合理的「配當制限」をやりたいものだと言ふのは、斯くすることに依て事業の内容を充實する、充實した結果は社會に對するサーヴィスに於て現はれ、國民は安い物を買ふと云ふ結果になるし延いては對外經濟戰能力を養成する結果になるからして、斯う云ふ過剰利益は無暗に配當せずに内容充實に使ひたい、勿論資本家に對しては應分の配當をしなければならぬ、多々益々便すると云ふのは御互ひの心理状態であるけれども、それをどの限度で喰ひ止めるか、それには自ら社會常識で行く限度があらうではないか、それに止めたものだと言ふ一般的气分はあります。併ながら之を表向きに君はそれだけ配當を取つちやいかぬとか云ふことは現實に於ては其の結果は宜くないと意見が勝を制しまして、今では特別なもの、外はそれを實行に現さうと云ふ氣分はありませぬ。唯電々會社とか滿鐵會社とか云ふもの、其他特殊會社で、「配當制限」をしないと云ふと國民の信賴を繋ぐことが出来ないと言ふやうなものに對しては「配當」に關して最も公正になるやう統制して行かねばならぬと思ふのであります。一般個人産業に對して「配當制限」をやると云ふやうなことは考へて居りませぬ。それから滿洲に企業をする場合の手續であります、此點に就きましては私説明が足りませぬで恐縮であります、今篠崎さんの仰しやつたやうなことを能く聽かされるのであります、大體に於きまして日本法人は領事館に届出さへすれば宜いのだ、滿洲國法人は滿洲國の實業部に

願出て其認可を貰へば宜いのだと言ふ譯であります、軍が抑へて居る爲に旨く行かぬ、結局今申し上げました結果になるのは軍にあるんだと言ふやうな非難がありましたので、軍との交渉要領と云ふことを曩に申し上げた譯でございます。是は今日ではもう斯の如き非難はないのぢやないか、さう云ふ心配はないぢやないか、例へば驗して見なさいと言ひたい位だと私考へて居ります。唯滿洲に日本法人を新に作ると云ふことは今後大局的に見て適當ぢやないんぢやないか、殊に治外法權附屬地行政問題なんかを返還する、さうしますと云ふと滿洲に於ける日本の私人及法人は悉く滿洲法規に従ふと云ふことになるのであります、さうなりますと云ふと條約上にて確保する權益の外は早晩滿洲法人と同じ取扱を受けることになるのでございますから、今日日本法人を以て彼方に設立すると云ふことは主要な事業に對しては許されぬと思ひます。茲は能く御諒解になつて戴かぬと云ふと、さう云ふ點で手續は遅れる結果になるかと思ひます。又滿洲國の實業部に願出をしても實業部が愚圖々々して居る、一向認可しない、元を質せば軍が關係して居ると云ふことがあるやうに聞くのであります、今日に於きましては實業部の陣容も整ひましたし、又經濟統制の目標とか要領とか云ふものも具體的に可なりはつきりして參りましたので、非常な、どさくさまぎれの頃に較べますと随分早く認可が貰へるんぢやないか、と斯う云ふ風に考へて居ります。定期異動等で軍なんか人が變りました爲に即座に解答を

求められても、又研究してから明日来いと云ふやうなことが重つてさう云ふやうな御心配の結果になつた事もあるかと思つて居りますが、もう今ではさう云ふ心配はないと思ひます。

篠崎常任幹事 もう一つ、最近に自由企業の範圍をもう少し擴げて貰ひたいと云ふ希望がありますがどう云ふものでせう。

東福事務官 自由企業と云ふのは殆ど總てがまあ自由企業なんですな、曩に申しました三段構へで統制して居るあの範圍だけは明瞭に力を入れて居ります。其他のものは唯認可主義を採つて居る關係上願出主義を採つて居りますだけであつて大體自由企業だから審査も早く認可も早いのだと云ふ積りで願出られて心配ないと思つて居ります。若し御心配ならば計畫を作る前に對滿事務局に聽いて貰ひますと云ふ風にされると文句に捉はれずに此點は缺點、此點は宜しいと云ふやうな事は解つて居りますから、私はさう云ふ手續を採られたらもう滿洲に願出する前に十中八、九は成否の見込を内地で解決してそれから滿洲に行かれると思ひます。どうもさう云ふ熱心な人が少いのです、どうも官廳に出るのは億劫だとか云つて……官廳と云ふのはさう云ふ手續指導をするのが官廳ですから、ちつとも億劫がる必要はないと思ふのであります。

中川監事 ちよつと御尋ねしますが、今の御話の自由企業で、認可免許がある爲に、實業部へ書類を出して、其實業部の手續が永いのですが、それを何とか御話のやうにですな、簡單に行かないものでせうか、軍部よりも實業部の方の手續が永いんじゃないかと思つて居ります。

東福事務官 是は私共其の通りの關係を通して言ふてやりまして督促するやうに致したいと思ひます。もう相當陣容が整ふて居ると思ひます。唯滿洲國實業部では滿人の役人と云ふのは其の慣習上、筆で書くんですね、さうして公文書だつて上の紙一枚に件名を書いて、次の紙に拜啓仕候を書いて、其次の紙に本文を書くとか云ふやうな譯で、主に筆を執つて書く、さうして實際實業部なんかに行つて見ますと云ふと仕事の能率化せない者が澤山居るんです。之は一概に今急に何とか改善すると云ふことも出来ません。陣容の整つた割合、頭數の割合に較べますと、是は仕事が遅れるのは創設時代の今日では或程度まで止む得ませぬ、是は漸次解決されると思ひます。殊に鑛山業方面に於きましては鑛業法の研究に於て永く引掛つて居たんです。そこで滿洲國政府はやりたいたいにも鑛業法の根本が出来ないものだから願出を受付ける譯に行かぬ、それかと云つて我々に方針がないとも思はれ度くないし、一方ならず人に迷惑を掛けて居たと思ひます。さうして政府の措置が不深切だと云ふ非難も受けました。所が今年の八月鑛業法に關する法規が一切出ましたから、鑛山業に就てはあゝ云ふ方面の非難はなくなるんじゃないかと思つて居ります、あれ迄はやらうとしても出来なかつたのです。(拍子)

昭和十年十二月二十日印刷
昭和十年十二月廿四日發行
(非賣品)

編輯兼發行人 篠崎嘉郎

東京市野區住吉町五六

印刷人 篠倉政一

東京市京區區邊町

印刷所 第一印刷所

二丁目十六番地

發行所 日滿實業協會

東京市麹町區丸の内三丁目十四番地
電話丸の内(23)五〇六一番
振替貯金口座東京四五八〇二番

